



S.Setoguchi

ジャパン・オータムインターナショナル

THE MILE CHAMPIONSHIP

第42回 マイルチャンピオンシップ (GI)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 180,000,000円 72,000,000円 45,000,000円 27,000,000円 18,000,000円
付加賞 3,864,000円 1,104,000円 552,000円



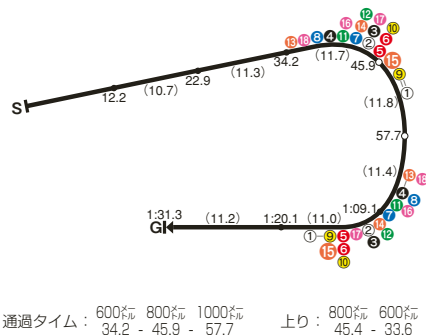
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳57^{kg}・4歳以上58^{kg}、牝馬2^{kg}減

2025.11.23 京都 晴・良 芝1600^m 国産 (指定)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑤	ジャンタルマンタル	牡	4	58	川田将雅	1:31.3	3-2	33.1	500(-6)	1.8 ¹	高野友和(栗東)	121
2	⑥	ガイアフォース	牡	6	58	横山武史	1 ³ / ₄	4-4	33.2	502(+6)	8.6 ⁴	杉山晴紀(栗東)	117
3	⑦	ウォーターリヒト	牡	4	58	高杉史朗	ハナ	7-8	33.0	472(+10)	130.2 ^⑤	石橋 守(栗東)	117
4	⑪	オフトレイル	牡	4	58	菅原明良	クビ	13-13	32.6	460(-2)	34.1 ^⑦	吉村圭司(栗東)	116
5	⑨	エルトンパローズ	牡	5	58	西村淳也	クビ	2-2	33.6	520(+4)	67.2 ^②	杉山晴紀(栗東)	115
6	⑩	ソウルラッシュ	牡	7	58	C.デムーロ	クビ	7-7	33.2	514(±0)	5.2 ^③	池江泰寿(栗東)	115
7	⑤	アスコリビチエーノ	牝	4	56	C.ルメール	3 ⁴ / ₅	4-4	33.5	478(-)	7.5 ^③	黒岩陽一(美浦)	110
8	④	マジックサンズ	牡	3	57	武 豊	1 ¹ / ₄	15-15	32.8	524(+4)	53.2 ^⑧	須貝尚介(栗東)	112
9	⑫	ドックランズ	牡	5	58	M.ザーラ	クビ	13-13	33.1	504(-)	120.2 ^⑨	H.ユースタス(英国)	112
10	⑦	チェルヴィニア	牝	4	56	T.マカド	クビ	10-12	33.3	492(-8)	45.4 ^⑩	木村哲也(美浦)	107
11	①	トウシンマカオ	牡	6	58	団野大成	クビ	1-1	34.5	476(-4)	58.9 ^⑪	高柳瑞樹(美浦)	111
12	⑬	レーベンスティール	牡	5	58	D.レーン	1 ¹ / ₄	10-10	33.7	486(+2)	19.3 ^⑫	田中博康(美浦)	108
13	⑧	カンチェンジュンガ	牡	5	58	藤岡佑介	クビ	16-15	33.1	496(+6)	240.9 ^⑬	庄野靖志(栗東)	107
14	②	ジャンパンカラー	牡	5	58	坂井瑠星	3 ⁴ / ₅	7-8	34.0	510(-6)	121.9 ^⑭	田中 剛(美浦)	106
15	⑬	ロングラン	牝	7	58	岩田康誠	クビ	18-17	33.0	478(-12)	192.3 ^⑮	和田勇介(美浦)	105
16	⑭	ラヴァンダ	牝	4	56	岩田望来	3 ⁴ / ₅	4-4	34.5	492(+4)	20.2 ^⑯	中村直也(栗東)	100
17	⑮	ワイドラトゥール	牝	4	56	北村友一	1 ¹ / ₄	17-17	33.3	430(+2)	278.2 ^⑰	藤原英昭(栗東)	97
18	⑯	ウインマーベル	牡	6	58	松山弘平	1 ¹ / ₄	10-10	34.8	484(+2)	53.5 ^⑱	深山雅史(美浦)	98

単勝⑤180円(1³/₄) 複勝⑤110円(1³/₄) ⑥230円(4³/₅) ③1,370円(14³/₅) 枠連③-⑦340円(1³/₄)
馬連⑥-⑬640円(2³/₄) ワイド⑥-⑬340円(2³/₄) ③-⑬3,930円(36³/₅) ③-⑥9,530円(61³/₅)
馬単⑤-⑬870円(2³/₄) 3連複③-⑥-⑬23,090円(58³/₅) 3連単⑤-⑥-③52,470円(139³/₅)
5重勝②③④⑤⑬198,820円(2,575票) 対象競走：京都9R/東京10R/京都10R/東京11R/京都11R



通過タイム： 600^m 800^m 1000^m 上り： 800^m 600^m
34.2 - 45.9 - 57.7 45.4 - 33.6

アラカルト

- ・川田将雅騎手はマイルチャンピオンシップ初勝利。JRA重賞は25年10勝目、通算152勝目
- ・高野友和調教師はナミュールで制した23年に続くマイルチャンピオンシップ2勝目。JRA重賞は25年3勝目、通算31勝目
- ・Palace Malice産駒はJRA重賞通算6勝目
- ・同一年の安田記念と本競走を制した馬は20年グランアレグリアに続く9頭目
- ・4歳馬の勝利は23年ナミュールに続く通算20回目
- ・勝ちタイム1:31.3は14年にダノンシャークが記録した1:31.5を0秒2更新するレースレコード
- ・非抽選馬 2頭(タイムトゥヘヴン、ニホンピロキーフ)

ジャンタルマンタル Jantar Mantar

牡 黒鹿毛 2021.3.21生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・宥社台レースホース 栗東・高野友和厩舎
馬名意味・インドにある天体観測施設

インディアマントウアナUSA系 F9-e

Palace Malice 鹿毛 2010	Curlin 栗毛 2004	Smart Strike
		Sherriff's Deputy
インディアマントウアナUSA India Mantuana 黒鹿毛 2014	Palace Rumor 鹿毛 2003	Royal Anthem
		Whisperifyou dare
インディアマントウアナUSA India Mantuana 黒鹿毛 2014	Wilburn 鹿毛 2008	Bernardini
		Moonlight Sonata
	Speed Wagon 青毛 2003	Tomorrows Cat
		Rajica

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×M5

INTERVIEW

吾田一也 調教主任(山元トレーニングセンター・育成)

何の不安もなく送り出すことができました

ここを勝てば前人未踏の大記録となりますので、勝つためにどう夏を過ごせばよいのか、スタッフ一同でプログラムを練りながら接してきました。富士S後は東京競馬場からこちらに直接戻すこともその策のひとつで、今回は何の不安もなく送り出すことができました。川田騎手、高野厩舎の皆さんからも「完璧、言うことはない」と声を掛けていただき万感の思いでした。



I.Terashima

るGIを史上初の快挙が彩った。
年秋の京都開催、そのフィナーレを飾
のメモリアルとして行われた2025
走の完全制圧も達成。開設100周年
の完全制圧も達成。開設100周年
のメモリアルとして行われた2025
年秋の京都開催、そのフィナーレを飾

父パレスマリスUSA

アメリカ産 北米19戦7勝(ベルモントSG₁、メトロポリタンHG₁、ガルフストリームパークHG₂、ニューオーリンズHG₂、ジムダンディSG₂、ウエストチエスターSG₃、ジョッキークラブゴールドC₁2着)、16年から米、日で供用〔代表産駒〕ジャンタルマンタル(本馬)、ストラクターUSA(BCジュベナイルターフ・米G₁、ビルグリムS・米G₃)、ミスターモノモイ Mr.Monomoy(リズンスターS・米G₂)、ライクザキング Like the King(ジェフルビーS・米G₃)、フライオンエンジェル Fly On Angel(チャールズタウンオークス・米G₃)、ノールロジャーUSA(シンザン記念G_{III})、インユアパレスUSA(エニフS・L)

母インディアマントウアナUSA

北米27戦6勝(レッドカーベットH・米G₃、ジンジャープリュース・米L2着、アリウスS・加3着、ウェイトアワイルS・米3着)、20年輸入

ジャンタルマンタル 本馬(21 社台Palace Malice)持込 中央9戦6勝(マイルチャンピオンシップG₁、安田記念G₁、NHKマイルC₁、朝日杯フューチュリティS₁、デイリー杯2歳S₆、富士S₆2着、共同通信杯G_{III}2着、皐月賞G₁3着)、香1戦0勝 最優秀2歳牡馬 獲得総賞金712,498,000円
ウンタターシャ(23 牝父パイロUSA)中央2戦0勝 ④
(24 牝父イスラボニータ)
(25 牝父パレスマリスUSA)
※20、22(流産)

祖母スピードワゴン Speed Wagon

アメリカ産 北米5勝(MTアスタリオンオークションラッシーS、レミントンパークBCオークス・L2着、ミネソタディスタフスプリントチャンピオンシップS2着、ノーザンライツデビュータントS3着)

ペナントフィーヴァー Pennant Fever(11 驕父Grand Slam)北米5勝
アブライドルアンドプレイヤー Abriedleandaprayer(13 驕父Songandaprayer)
北米3勝

インディアマントウアナUSA(14 前出)

曾祖母ラジカ Rajica

アメリカ産 北米5勝(エヴァーグリーンS、クイーンシティオークス・L2着)

ラナウェイバビィ Runaway Babbie(95 牝父Runaway Groom)北米1勝、ラナウェイジュリー Runaway Julie(ローズデバルトロメモリアルS・米、ボビーブリッカーメモリアルH・米)、モンフォートレーン Montfort Lane(シンシナチアンS・米2着)の母

スピードワゴン Speed Wagon(03 前出)

2つの快挙も達成したGI4勝目

単勝1・8倍と圧倒的な支持を集めたのは安田記念の覇者、ジャンタルマンタル。秋のマイル王決定戦・マイルチャンピオンシップは同馬が挑む、2つの快挙の成否が最大の焦点となった。前年の優勝馬ソウルラッシュ、春のマイル女王アスコリビチエーノをはじめ、逆転候補にも層の厚い強豪が揃ったなか、ジャンタルマンタルは中身の濃い内容で完勝。春秋マイルGI制覇を果たすとともに、史上初の「コンブリート」をやったのけた。

確たる逃げ馬が不在の顔ぶれから先手を奪ったのは、最内枠を引いたトウシンマカオ。スプリント路線から転戦してきた同馬は後続に5馬身ほどの差をつけて思い切りよく飛ばす。ジャンタルマンタルの川田将雅騎手は、これを深追いしなかった好位勢の一角、離れた3番手の外を走走。アスコリビチエーノは直後の内につけ、一番のスタートを切った後、自然体で位置を下げたソウルラッシュも常より前、7番手の外で流れに乗った。

3コーナーの坂の下りに差し掛かると、好位勢が徐々に前へ接近。4コーナーから加速を促して直線に向いた川田騎手は力尽きた逃げ馬をかわし、残り300メートル地点で先頭に躍り出る。早めには後続を突き放したジャンタルマンタルは最後までしっかりとした末脚を発揮。もつれた2着争いを制したガイアフォース以下の追撃を寄せ付けず、コースレコードタイを記録して危なげのないフィニッシュを決めた。

2歳時の朝日杯フューチュリティS、3歳時のNHKマイルカップ、そして春の安田記念と、キャリアを重ねながら着々とGIのタイトルを積み上げてきた本馬。始動戦の富士Sでは2キの斤量差も影響してガイアフォースの2着に敗れたが、本番でキツチリと巻き返し、史上9頭目の同一年春秋マイルGI制覇を果たした。この勝利により、牡馬が出走できる国内マイルGI4競走の完全制圧も達成。開設100周年のメモリアルとして行われた2025年秋の京都開催、そのフィナーレを飾るGIを史上初の快挙が彩った。